



海幸山幸

海で魚をとっている海幸と、山で狩りをしている山幸の兄弟がおりました。弟の山幸は、自分の弓矢を兄のつり道具ととりかえて、海に行きましたが、いつぴきの魚もつれず、その上、つり針をなくしてしまいました。

兄から、「どうしても、あのつり針をかえせ。」といわれた山幸が、海辺で泣いていると、潮の満ち干をつかさどる塩椎神があらわれ、海をおさめる綿津見神の宮殿に案内してくださりました。教えられたとおり、門のそばの井戸の上の木にのぼっていると、女の人がりっぱな器を持って水汲みに出て来たので、「水をください。」とたのみました。山幸はさしだされた器に、首かぎりの玉を入れて返しました。その玉を見た綿津見神と娘の豊玉毘売命は、「これは貴いお方だ。」といつて、たいへんもてなされました。そして、山幸と豊玉毘売命は結婚されました。三年ののち、山幸が前になくなりました。針のことを話すと、綿津見神は鯛のどにささっていたつり針を見つけてやりました。さらに、水を自由に満ち引きできる二つの玉も山幸にさずけられました。

海の神さまの貴い力ぞえをいただいた山幸は、ワニにおくられてかえり、大きな力をもつようになりました。